



第4回北海道地域日本語教育シンポジウム 「北海道 ナゼここに？ 新しいコミュニティ」を開催

【概要】

外国人労働者が急増する北海道では技能実習や特定技能として働く人たちの存在が注目されていますが、道内には、家族帯同が可能なビザで来道した人たちが新たなコミュニティを築いている地域もあります。本シンポジウムでは、浦河町のインドコミュニティ、江別市・当別町にまたがるパキスタンコミュニティに注目します。コミュニティの今を知り、今後必要とされる日本語学習支援についても考えます。

【趣旨】

第1部で北海道総合政策部国際局国際課、キャリアバンク株式会社より北海道の外国人受け入れの現状を、識者より2027年度の育成就労への移行に向けた今後の展望を伺います。制度の変更とともに、今後、北海道の各地域で家族を伴う外国人労働者が増加していくことを踏まえ、第2部では、既に家族を伴うコミュニティが形成されている浦河町、江別市の状況を自治体関係者、支援者、当事者よりお話しいただきます。最後に、文化庁の地域日本語教育アドバイザーを務める深江新太郎氏より、コミュニティを持つ人たちへの日本語学習支援の可能性を伺います。

【日 程】 2025年1月25日（土） 13時00分～16時30分（受付：12時45分から）

【場 所】 オンライン配信及びサテライト対面会場（以下の4会場）

- ・市民交流施設ぶらっと（北海道江別市東野幌本町6-43）
- ・北見工業大学（北海道北見市公園町165）
- ・JICA北海道（帯広）（北海道帯広市西20条南6丁目1-2）
- ・旭川市民国際交流センター（北海道旭川市1条通8丁目108番地 Feeeal 旭川7階）

【主 催】 北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部、SHAKE★HOKKAIDO

【対 象】 一般市民

【募集人数】 250人

【参加費】 無料

【言語】 日本語

【プログラム】 オープニング 13:00～13:15

第1部 北海道の受け入れの今と今後

13:15～13:30 「北海道の今と地域日本語教育推進事業」

幅口一路（北海道総合政策部国際局国際課・課長補佐）

13:30～13:45 「北海道における外国人受け入れの現状」

水田充彦（キャリアバンク株式会社海外事業部・部長）

13:45～14:05 「受け入れ制度の変化から考える北海道の今後」

宮入 隆（北海学園大学経済学部・教授）

第2部 北海道の新たなコミュニティの今

第2部① 浦河町

14:20～14:30 「浦河町におけるインドコミュニティの形成と町の対応」

長崎哲之（浦河町役場企画課・課長）

若林寛之（浦河町役場企画課企画統計係・係長）

14:30～15:45 「支援者から見たインドコミュニティ女性のある方に注目して」

稲岡千春（浦河町地域おこし協力隊）

14:45～15:00 「浦河町在住インド人の背景と現状」

栗田知宏（東京外国語大学・特定研究員）

澤田彰宏（東京外国語大学・非常勤講師）

第2部② 江別市

15:05～15:20 「江別市におけるパキスタンコミュニティの形成」

土門寛治（北海道新聞・記者）

15:20～15:35 「在留資格からみる中古車事業」

林 佑樹（すずかぜ合同事務所・行政書士）

ハッサン マンスール（HERO TRADING 株式会社・代表取締役）

15:35～15:45 「パキスタンコミュニティの今と未来」

ソバン ファルーク（北海道情報大学・学部1年生）

総括

16:00～16:20 「コミュニティを持つ人たちに私たちができる日本語学習支援とは」

深江新太郎（NPO 多文化共生プロジェクト・代表）

フィナーレ 16:20～16:30

【申込方法】 2025年1月20日（月）までに、以下の Google Form よりお申込みください。

<https://forms.gle/egMMJ5qXcSu9rQad8>

お問い合わせ先

北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部 准教授 / SHAKE★HOKKAIDO 代表

平田未季（ひらたみき）

T E L 011-706-8010 メール mihirata@oia.hokudai.ac.jp

U R L <https://isc.high.hokudai.ac.jp/>

<https://shakehokkaido.studio.site/> （SHAKE★HOKKAIDO）

配信元

北海道大学社会共創部広報課（〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール jp-press@general.hokudai.ac.jp



第4回北海道地域日本語教育シンポジウム

WHY



北海道

ここに?

新しい

コミュニティ

オンライン配信

参加
無料



NEW



2025.1.25 SAT

13:00-16:30

申し込み
締め切り 1.20 SAT

お申し込みは
コチラ!



定員

250名



本シンポジウムは、

北海道の多様な日本語教育の現場を知り、

支援者の間にゆるやかなつながりを

つくることを目的としています

今年も抽選企画あり!

なんと



参加特典

後日郵送

登壇団体ネームカード&
SHAKE★HOKKAIDO
「多文化えんげきワークショップ」
vol.2冊子

- グリーンス北見
オニオンスープ
- 浦河の名産物
- 江別の銘菓
- 北見の銘菓「赤いサイロ」
- 奥尻ワイン
- 鮭まるごと1本! (切り身)

が、当たる!!



北海道では技能実習や特定技能として働く人たちの存在が注目されますが、中には、家族帯同が可能なビザで来北し、新たなコミュニティが築かれている地域もあります。今回は浦河町のインドコミュニティ、江別市・当別町にまたがるパキスタンコミュニティに注目します。コミュニティの今を見ながら、必要とされる日本語学習支援について皆さんと考えたいです。

オンライン配信会場

サテライト対面参加会場

札幌

キャリアバンク株式会社

江別

市民交流施設ぷらっと
〔江別国際センター〕

北見

北見工業大学
〔北見工業大学+いろはの会〕

帯広

JICA北海道センター
〔帯広〕

旭川

旭川市国際交流センター
フィール旭川7階
〔旭川JICAデスク〕

コミュニティの今を見てみよう！

NEWS
江別市



江別市にパキスタン人が急増。その理由とは？

NEWS
浦河町



増えるインドからの移住者。支援の現場は？

北海道 ナゼここに？ 新しい コミュニティ

START

オープニング
13:00

北海道の今と
地域日本語教育
推進事業

幅口 一路氏

北海道総合政策部 国際局国際課・課長補佐

15MINUTE

北海道における
外国人受け入れの
現状

水田 充彦氏

キャリアバンク株式会社 取締役、海外事業部・部長
株式会社ジャパンランゲージ 代表取締役社長

15MINUTE

受け入れ制度の
変化から考える
北海道の今後

宮入 隆氏

北海学園大学経済学部・教授

15MINUTE

浦河町在住
インド人の
背景と現状

栗田 知宏氏 澤田 彰宏氏
東京外国語大学南アジア 東京外国語大学
研究センター・特定研究員 ・非常勤講師

15MINUTE

支援者から見た
インドコミュニティ
—女性のあり方に
注目して

稲岡 千春氏
浦河町地域おこし協力隊

15MINUTE

浦河町における
インドコミュニティの
形成と町の対応

長崎 哲之氏
浦河町役場企画課・課長

10MINUTE

休憩
14:05



江別市における
パキスタンコミュニティ
の形成

土門 寛治氏
北海道新聞・記者

15MINUTE

在留資格からみる
中古車事業

林 佑樹氏
すずかぜ合同事務所・行政書士
ヒーロー(ハッサン マンスール)氏
HERO TRADING株式会社・代表取締役

15MINUTE

パキスタン
コミュニティの
今と未来

ソバン ファルーク氏
北海道情報大学・学部1年生

10MINUTE

休憩
15:45



最後までドキドキ！

当たり
ますように



フィニッシュ
16:30

THANK YOU

- しめのご挨拶
- サテライト会場リレーあいさつ
- 抽選当選者発表！
- 参加者特典の案内
- アンケートご協力をお願い
- 来年度のご連絡

10MINUTE

コミュニティを
持つ人たちに
私たちができる
日本語学習支援とは

深江 新太郎氏
NPO多文化共生プロジェクト・代表

20MINUTE

総括

SHAKE★HOKKAIDO

私たちは、北海道で日本語学習支援・共生支援に取り組む人たちが
ゆるくつながるための活動、そして多様な人たちが新しい北海道の姿を
ともに楽しく考えるための活動を行っています！

お問合せ 平田 未季 mihirata@oia.hokudai.ac.jp



HP FACEBOOK

- | | |
|----|--|
| 主催 | 北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部、SHAKE★HOKKAIDO |
| 共催 | 北海道総合政策部国際局国際課、キャリアバンク株式会社 |
| 協力 | JICA北海道 |
| 協賛 | 株式会社 グリーンス北見、株式会社 久恵比寿 |
| 助成 | ・2024年度世界の人びとのためのJICA 基金活用事業
・秋山記念生命科学振興財団ネットワーク形成事業助成A(一般) プロジェクト
・2024年度トヨタ研究助成プログラム「つながりがデザインする未来の社会システム」 |